

●大和沢ダムの概要

目的

- ①大和沢川の洪水の防止
- ②大和沢川の既得用水の安定化
- ③土淵川と腰巻川へ環境用水の補給

施設諸元

- ・総貯水容量: 7,800,000 m³
- ・治水容量: 400,000 m³
- ・利水容量: 7,000,000 m³
- ・堆砂容量: 400,000 m³
- ・堤 高: 80.0 m
- ・堤 頂 長: 212.0 m
- ・堤 体 積: 292,000 m³




事業費・工期

- ・事業費: 約 287 億円 (残事業費: 約 278 億円)
- ・工 期: 平成34年度

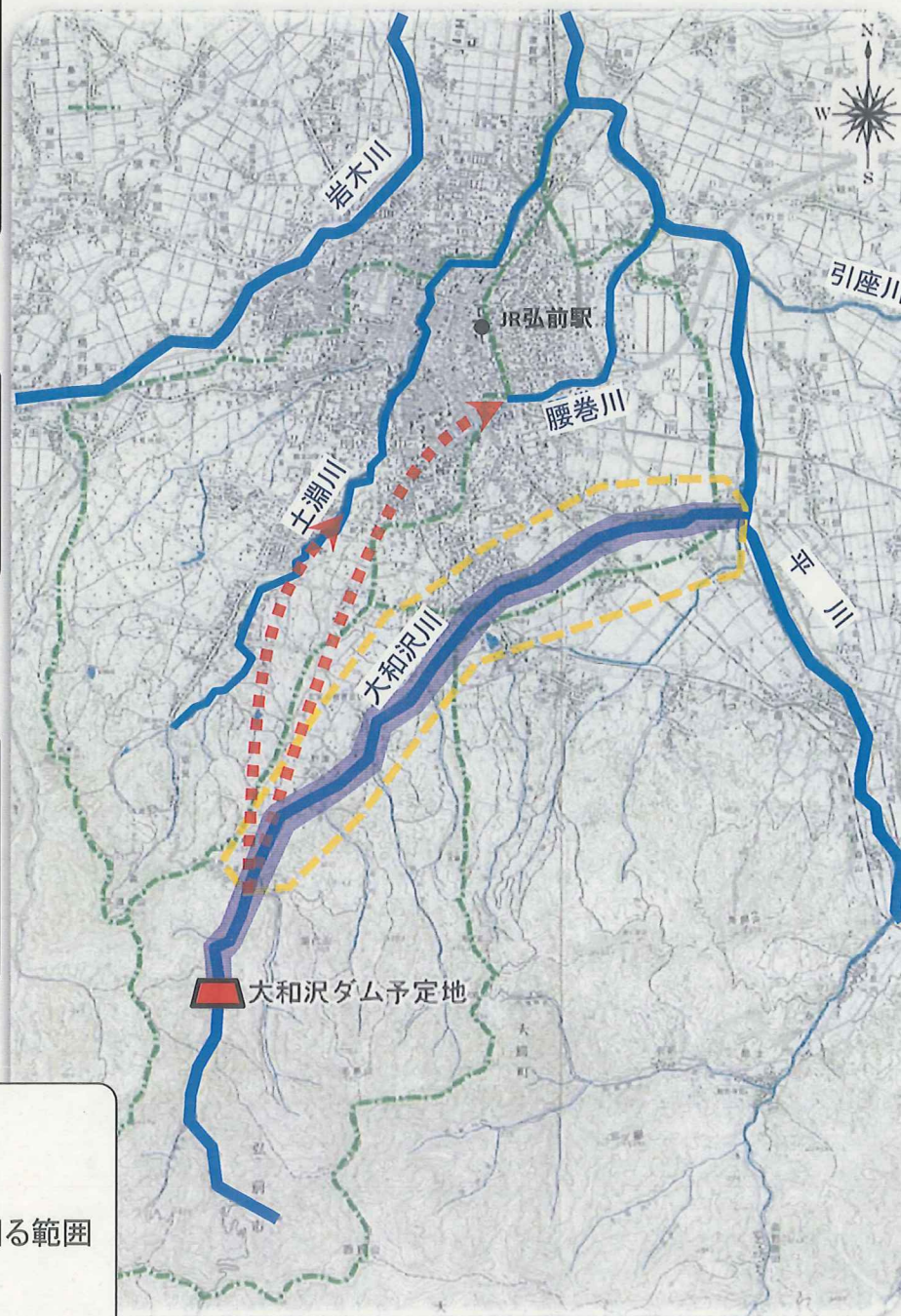
事業経緯

- ・予備調査 平成2年度～平成4年度
- ・実施計画調査 平成5年度～

凡 例

-  : 洪水を防止する範囲
-  : 既得用水の安定化を図る範囲
-  : 環境用水の補給

位置図



●目的の達成状況

①大和沢川の整備計画及び改修状況

- 岩木川水系河川整備計画(弘前圏域)を策定(平成19年12月)
 - ・本川平川や腰巻川等の近傍河川と同等の治水安全度1/20を大和沢川における当面の改修目標とした
 - 本川平川合流点より600m区間の改修が完了。引続き 河道改修を進める

治水安全度1/20の河道改修のみで昭和50年、昭和52年と同程度の洪水に対応できる。なお、改修に要する費用は約50億円

②大和沢川の既得用水の状況

農業用水堰の調査結果

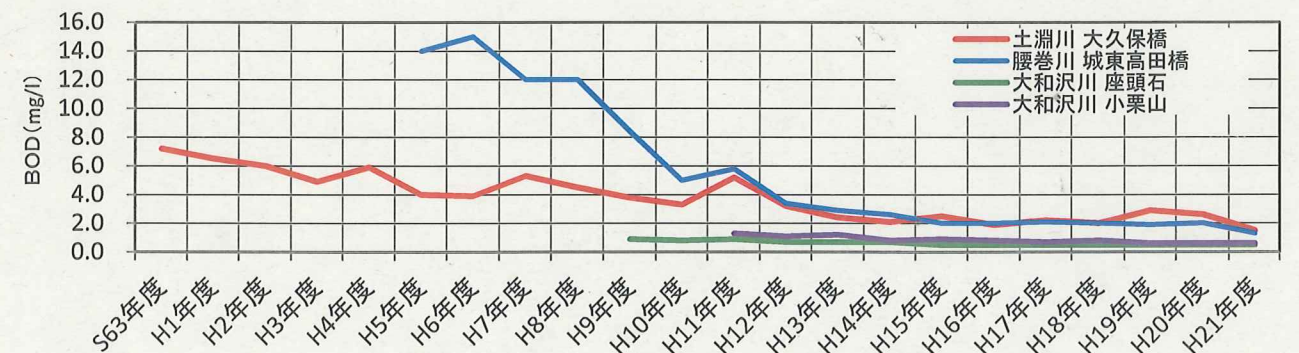
かんがい面積 (ha)		最大取水量 (m ³ /s)	
当初計画時	現況調査結果	当初計画時	現況調査結果
173.41	76.48	0.546	0.245

※表中の値は、大和沢川に係る4用水堰の合計値

○かんがい面積の大幅な減少に伴い、最大取水量が大幅に減少

大和沢川の水量が回復し、安定化の必要がなくなった

③土淵川と腰巻川の河川環境の状況



土淵川、腰巻川、大和沢川における水質調査結果の推移

○平成13年頃にかけて両河川の水質が大幅に改善。その後も良質な状態で推移

環境用水を補給する必要がなくなった

●青森県の対応方針

近年、弘前市の下水道整備が急激に進展し、土淵川・腰巻川の水質が著しく改善されたため、環境用水の供給の必要性、利水の緊急性がなくなり、ダム建設事業を中止することにした。

治水対策については、平川合流点より600mの区間を計画高水流量320m³/sで改修が完了しており、今後、引き続き河道改修を進めて行くこととしている。